

No. 1115

カブラヤオー二冠

日本ダービー

5月25日快晴の東京競馬場に14万の観衆を集め第42回日本ダービーが行われました。28頭の明け4歳サラブレッドが出走、人気の中心はシードされた12番カブラヤオー。

レースはスタートからハナにたったカブラヤオーが2400メートルの長丁場を2分28秒0のタイムで見事逃切り、さつき賞に次いで二冠を達成、賞金4,600万円を獲得しました。菅原泰夫騎手は桜花賞、さつき賞、オークスとあわせて史上初の四冠を達成五冠をかけた秋の菊花賞に期待をもたせました。

鉄鋼公害訴訟

京葉工業地帯に位置する川崎製鉄千葉製鉄所。それは新日鉄、日本鋼管に次いで日本第3位の売上げを誇る大手鉄鋼企業である。昭和45年、川崎製鉄では日本の鉄鋼需要の見通しに基いてさらに粗鋼生産量の増産を計画、5,300億の巨費を投じ6号高炉の建設に着手した。製鉄所周辺に住む人たちは高炉増設は大気汚染の深刻化をもたらすとして建設に反対し続けて来たが3月6日、川鉄・県・市による三者協定が調印され、建設は認可された。千葉県・塚本環境部長は「6号高炉の建設には脱硝装置をはじめとする今後の公害対策の指導監督に県が充分自信を持っている」と語った。大気汚染のため気管支ぜんそくなどの公害病に悩む患者らを中心に結成した千葉川鉄公害原告団は5月26日、市民の健康破壊につながる恐れのある高炉増設に同意した県と市の責任を追求し、川鉄の6号高炉増設・差し止め請求の訴訟にふみ切った。川鉄の京野総務部長は「市民に理解されずにまことに残念だ」と語ったが、大気汚染に苦しむ市民は後を絶たない。市内に住む高橋さん一家は父と二人の子供が公害病認定患者だ。

今日も、4才の茂之ちゃんはせき込んで寝ている。今回の訴訟は損害賠償と差し止め請求を合わせている点が注目されるが、はじめての鉄鋼公害訴訟だけに新たな争点を浮びあがらせることだろう。